

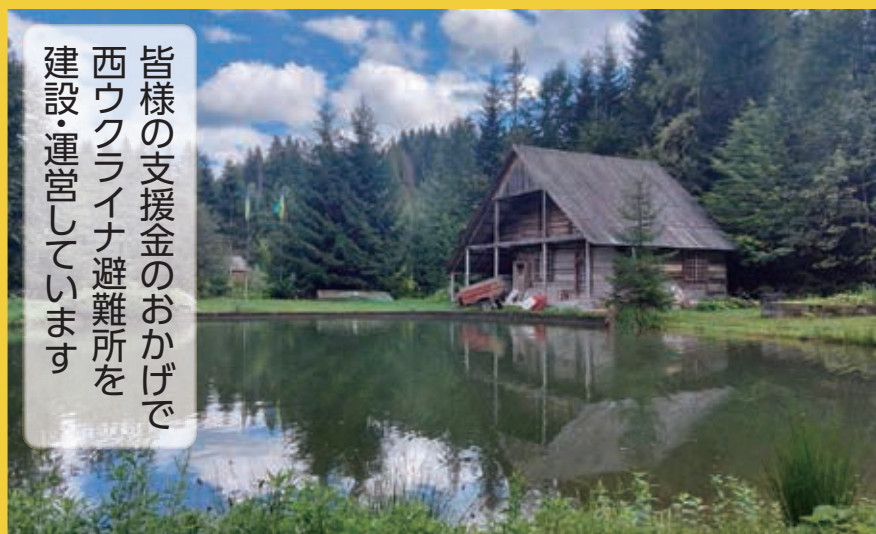


ウクライナに平和を

2023年2月24日(金)

八尾市文化会館プリズムホール
小ホール(大阪府八尾市光町2-40)

ウクライナへ届け、勝利の歌声!



皆様の支援金のおかげで
西ウクライナ避難所を
建設・運営しています



歌手
Ono Aki



バンドウーラ奏者
プロチコ・アナスタシア

ウクライナから大阪に
母親と避難した
9歳の天才少女がバンドウーラ演奏



詩人
ボグダン・パブリー



評論家
グレンコ・アンドリー

ウクライナの詩人と評論家が登壇



歌手
Eva Hadashi



モデル
NASU

ウクライナの歌手とモデルが共演

開場17:30 開演18:30 チケット一般全席指定(税込) 前売3,000円 当日3,500円
収益金の一部はウクライナ人道支援に寄付されます

【お問い合わせ・チケット販売】

日本ウクライナ文化交流協会

TEL072-926-5134 E-mail info@nichiu.org

PRISM HALL

【チケット販売】 TEL072-924-9999

*中学生以下のお子様のご入場はご遠慮願います
*車椅子でお越しの方は事前にご連絡をお願いします

長引く戦禍 寒さ防ぐ場

同協会はウクライナとの交流を目的に2005年に設立。2月の侵略開始後は、日本に逃れてきた避難民の生活を支援してきた。同協会などによると、ウクライナでは2月以降、国外に約1300万人が避難したが、国内の比較的安全な地域に避難する人も増えており、避難所の不足が

ロシアから侵略を受けるウクライナを支援するため、市民団体「日本ウクライナ文化交流協会」（大阪府八尾市）が、戦地から離れたウクライナ西部に避難所を開設する。長引く戦禍により現地では避難所が不足しており、寒さが厳しくなる冬に備えて11月にも受け入れを始める方針。同協会の小野元裕会長（59）は「安心して生活できる場を提供したい」としている。

指摘されている。国際移住機関(IOM)によると、国内の避難民は8月23日時点で697万人による。

こうした状況の中、避難所開設は、日本に留学経験があり、キウ近郊で暮らす同協会アドバイザーのアン德里・ブチネフさん(48)が思い立った。ブチネフさんは避難所



避難所開設に向けてウクライナの現地でも書状を交わす小野さん(左)とブチネフさん(右)。いずれも協会提供



ウクライナ西部で開設予定の避難所

大阪の団体ウクライナに避難所

が不足し、不自由な生活を強いられる人々を見てきた。水点下20度に達する冬に備え「寒さをしのげる避難所が必要」と考え、小野会長に相談して実現した。

避難所は、ウクライナ西部にある村の敷地(約1畝)に開設。最大30人の受け入れが可能で、保養施設(木造2階建て、延べ140平方メートル)を改修し、暖房設備を完備する。敷地内では野菜や果物を栽培するなどし、食料不足を補う。

土地・建物の購入や運営には約10万円(約140万円)かかり、うち4割が日本が集まった寄付金で充てられている。運営はブチネフさんが代表を務める現地のNGO「ドプロタリ(善行)」が担う。

小野会長は9月に現地を訪れ、ブチネフさんと運営協力に関する書状を結んだ。ブチネフさんは「避難所はまだまだ必要で、予算も人手も足りない」とし、小野会長は「避難所は日本とウクライナとの友好の象徴。一日も早く戦争が終結してほしい」と話した。

同協会は敷地内に避難所を2棟増設する計画で、ホームページで寄付金やボランティアの支援を募っている。

厳冬 ウクライナに暖を

文化交流協 カイロ1000個寄贈

ロシアから侵略を受けるウクライナを支援しようと、日本ウクライナ文化交流協会(八尾市)は17日、使い捨てカイロ1000個をウクライナに送った。現地のNGO「ドプロタリ(善行)」を通して、首都・キウ市内で配る。小野

元裕会長は「水点下20度に陥る極寒の冬で、一人でも多く暖を取ってほしい」と願う。ロシア軍が10月以降、ウクライナの発電施設などを断水に加え、旧連時代に作られたセントラルヒート

リング(集中暖房)も使えなくなり、市民生活に深刻な影響が出ているという。集合住宅が多い都市部ではセントラルヒートリングが止まり、エレベーターも動かなくなると高層階で凍死する高齢者が出ることも懸念されている。

日本に留学経験のある、現地NGOのアン德里・ブチネフさん(48)から「日本の使い捨てカイロが有効」と小野会長に提案があったという。

小野会長は「支援はまだ不足している。多くの企業や個人に協力をお願いしたい」と呼びかけている。



水野瞳(シンキングボカール)



REIKO(Vln)



筒井裕之(Gt)



高野正明(Perc)